

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニューズレター 2011年1月号 (http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/22-newsletter/nl_2011.html)

「4年目を向かえる日韓技術交流・研究会と Workshop」



電気学会 産業応用部門 半導体電力変換技術委員会 日韓 Workshop 担当
西田 保幸 (千葉工業大学)

日本・韓国間のパワーエレクトロニクス分野に於けるエンジニアの交流は、日本での国際会議 (IPEC や PCC) および韓国での国際会議 (ICPE) が回を重ねるに従って強まり、コンバータ分野の研究者の間で「隣国同志である日韓で小規模な1対1の技術交流の場を持つては」との意見が数年前に聞かれるようになった。一方、産業応用部門ではその頃から国際交流が推進されたり、また日韓中3国のそれぞれの国際会議を連携して開催する事 (ECCE-アジア) について話し合われたり、日韓のパワーエレクトロニクス分野に於ける交流推進の雰囲気があった事もあって、「この機会に日本側の電気学会と韓国側の Korean Institute of Power Electronics (KIPE)の双方の Semiconductor Power Converter (SPC) Technical Committee (半導体電力変換技術委員会) が主催団体となって技術会合 (研究会) を開催しよう」という事になった。

その第1回目は、KIPE-SPC (技) 側の Jaeho Choi (Chungbuk 大) 先生と電気学会-SPC (技) 側の筆者と伊東先生 (長岡技科大) を幹事として、2008年9月26日(金)～27日(土)に韓国・太田 (Daejeon) 市で二日間にわたって開催され、日本側18件、韓国側16件の論文発表 (聴講者も含めた参加者数は60名超) や懇親会を行い、大いに技術交流・情報交換を行いつつ懇親を深めた。その様子は産業応用部門ニューズレター2009年1月号で紹介している。

第2回目は日韓とも同じ幹事にて2009年6月26日(金)～27日(土)に栃木県那須町にて、日本側24名、韓国側9名の参加を得て開催し、研究発表 (日本側9件 (1件は Po-Tai Cheng 先生(台湾・精華大)の招待論文)、韓国側10件) や懇親会など、第1回目と同様スタイルで実施してさらなる懇親を深めつつ成功裏に終えた。その様子は産業応用部門ニューズレター2009年10月号の「学界情報」で紹介している。

第2回目の終了後、交流の継続の為に会合のありかたを日韓双方の関係者で検討した結果、最新の研究成果を発表し合いながらの技術交流をするだけでなく、次代を担う学生の日韓交流の場も持ちたいとの思いから、「日韓数件ず

つの基調講演+学生のポスター発表」との形で第3回目を2010年10月1日(金)～2日(土)に韓国・釜山にて開催し、日韓ともに約30名の参加者の下、韓国側基調講演4件、日本側基調講演2件、韓国側学生ポスター発表16件、日本側学生ポスター発表13件の発表が行われた。両国の学生間の交流を願って開始した学生ポスター発表を暫く見守りつつ、日韓の学生間の交流も根付き発展する事を期待したい。ところで、第1回と第2回は日本側では電気学会研究会として扱ったが、この第3回目からはワークショップとしての扱いに切り替えて実施形態に自由度を持たせ、これに伴って電気学会産業応用部門半導体電力変換技術委員会の小倉委員長とKIPE-SPC (技) の Tae-Won Chun 委員長との間で覚書 (MOU) を交換した。

3回を重ね4年目を向かえようとしている日韓技術交流の節目にあたり、本技術交流の開始の経緯、過去3回の実施の様子と現状を紹介した。隣国である韓国のパワーエレクトロニクス分野の研究者とは今後とも親交を深めたく、また、ECCE-アジア等でますます協調・協力が必要となっていく近隣諸国・地域との関係の強化にこの日韓技術交流が役立つことを望んでいる。その為には会員各位の協力とアドバイスが必要であり、関係者を代表してお願い申し上げる。



第3回日韓ワークショップでの基調講演の様子
(講演者：首都大・清水先生)